

新聞を子どもたちにプレゼントし、様々なことに役立てよう

開倫塾

塾長 林明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
先週の放送では、8月1日と2日に「NIE(教育に新聞を)」全国大会が宇都宮市で開かれたこととお話しました。その大会には約1000名の方々がお集まりになりました。私もパネルディスカッションのパネラーの一人として参加し、いろいろな新聞社の方の話を聞いたり発言したりしました。私の発言を皆様にもぜひお聴きいただき、ご協力をお願いしたいことがあります。そこで今日は、先週の続きをお話させていただきます。
2. 新聞を毎日ひたすら一面からなめるように読むと、本当にいろいろなことがわかります。例えば新聞には、地域・日本・世界で今どんなことが起きているのか、今熱心に議論されているSDGs(2030年を見据えて、国際社会がこれから何をどうしたらよいかということ)、それに関する世界・日本・地域の課題、健康についてなど、本当にいろいろなことが細かに載っています。このように、記者の方や新聞社の方がみんな一所懸命に作っている、日本の文化・世界の文化ともいえるものが新聞です。
3. ただ、最近は問題があります。私は中学校、高等学校、大学などいろいろなところに行って出張授業をさせていただいています。そこで気になるのは、新聞を読んでいる方が少ないことです。これが最大の問題です。そんなに問題ではないという方もいると思いますが、私にとってはとても驚くことです。40年ぐらい前に学習塾を始めた頃は、ほとんどの塾生の皆様の家庭で新聞を取っていましたので、私も家で取っている新聞を持って行って一緒に読んだりしました。
4. ところが、今は新聞を取っている家庭が少なくなりました。栃木県、群馬県、茨城県では割に取っていますが、東京に近ければ近いほど少ないような気がします。
開倫塾は都内でも30か所ぐらいの校舎を展開していますが、塾生の皆様にお聞きすると取っていない方が多いようです。
5. そこで、皆様をお願いしたいのは、ぜひご家庭で新聞を取っていただきたいということです。そして、今日の新聞ではなく昨日のものでもよいので、子どもたちにプレゼントしていただきたいということです。大切な記事などは前もって抜いておき、残りを自由に使っていいよという形でプレゼントしてください。すると、子どもたちは一所懸命に新聞を読むようになります。

今日の新聞は独り占めできないでしょうから、昨日より前の新聞を子どもたちの教育に役立つように、また、子どもたちがそれを用いてしっかり勉強するようにプレゼントしていただければと思います。

6. この放送をお聴きの皆様の中にはおじいちゃんやおばあちゃんにあたる方もいらっしゃるでしょうから、お孫さんや近所の子どもに新聞をプレゼントし、子どもたちが新聞を読めるような環境を作っていただきたいと思います。新聞を毎日 30 分ぐらい一面からなめるように読むと、世の中がどのように動いているかということが本当によくわかるからです。

7. 新聞をじっくり読むと、読解力も身に着きます。読解力とは、文章を正確に、分析的に、論理的に読み解く力のことです。新聞を1日 30 分ずつ、1年、2年、3年と読み続けると、文章からいろいろなものごとを読み解く力がついてきますので、本当に素晴らしい勉強になります。

8. 学校の勉強にも役立ちます。教科書の難しい内容も、新聞を毎日読んでいる方は理解できます。知らない内容が出ることのある入学試験では最後の一行まで正確に読み解くには読解力が必要です。新聞を読んで培った読解力は、これにも役立ちます。

9. 社会に出て仕事をするとき、社会的な活動をするときには、現代的な課題は何かがわかっていないとなかなかうまくいきません。この課題を知る上で新聞は役立ちます。また、新聞は健康欄が非常に充実していて、病気などにならないようにするにはどうするか・病気から回復するにはどうしたらよいかということがたくさん出ています。ですから、健康で長生きをするためにも役立ちます。役に立たないことは一つもありませんので、ぜひ新聞を読んでいただければと思います。

10. 新聞の一番よいところは、世の中のちょっとおかしいのではないかと思うことがたくさん書いてあることです。社会の番犬として、世の中のおかしいことを教えてくれるのが新聞の役割・使命です。そのため、毎日毎日読んでいると、世の中の不条理やおかしなことがよくわかり、自分で考える力・批判的思考能力が身に着きます。

11. このように、新聞は本当に素晴らしい勉強のツール、道具ですので、ぜひ自分のお子さんや身近なお子さんに昨日より前の新聞をプレゼントするという取り組みをしていただければ、こんなに嬉しいことはありません。よろしく願いいたします。